

## 授業概要

絵巻物と呼ばれる作品群がある。絵巻とは、文字（詞書）と絵画部分が交互に現れ、それが一体となって物語を語っていく文学形態がある。絵と文字とが一体となるといえば漫画と似ているが、それと同じように登場する人々は、滑稽かつ大胆であり、また非常にリアルで動的に描かれている。

そして、時に絵は文字の物語を超えながら、単に文字情報だけでは語れない別の物語を語り始める。この授業では、そのような絵巻の代表的作品をいくつかと取り上げながら、文字だけで描かれる文学とは違う、むしろアニメや漫画に近いとされる、日本文学の作品を味わってみることとする。

## 授業計画

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 第1回  | 導入・授業計画の説明               |
| 第2回  | 絵巻とは                     |
| 第3回  | 絵巻の表現方法（異時同図法・吹抜屋台）      |
| 第4回  | 『宇治拾遺物語』・『古本説話集』との関係について |
| 第5回  | 信貴山縁起絵巻（1）元となる説話と詞書      |
| 第6回  | 信貴山縁起絵巻（2）絵と詞書の対比        |
| 第7回  | 信貴山縁起絵巻（3）絵と詞書の対比        |
| 第8回  | 信貴山縁起絵巻（4）絵と詞書の対比        |
| 第9回  | 信貴山縁起絵巻（5）絵と詞書の対比        |
| 第10回 | 信貴山縁起絵巻（6）               |
| 第11回 | 信貴山縁起絵巻（7）まとめ            |
| 第12回 | 信貴山縁起絵巻（8）まとめ            |
| 第13回 | その他の絵巻（1）                |
| 第14回 | その他の絵巻（2）                |
| 第15回 | 総まとめ                     |
| 第16回 | 定期試験                     |

## 到達目標

絵巻物の表現方法および詞書への基本的な理解が出来ることと、文字だけではない日本の古い文化への興味を持ってもらうことを到達目標とする。

## 履修上の注意

高等学校までの古典の知識を最初から求めるつもりはない。ただ、既に知っていることから始めて、やや難解な点にまで授業を発展させる予定であるので、積極的に授業に参加して質問をしていただきたい。また、『日本文学概論（古典）』は履修済みであることがのぞましい。

## 予習復習

扱う範囲が広いためにテキストは指定しないが、大学の図書館、近隣の図書館を利用して資料を見る習慣をつけてもらえればありがたい。

## 評価方法

出席状況、受講態度、試験の成績等をもとに総合的に判定する。機械的な判定はしないが、基本的な原則はお互い守るようにしたい。

## テキスト

特に指定しない。必要に応じて授業中にプリントを配布する。特に指定しない。但し、泉武夫『信貴山縁起絵巻一躍動する絵に舌を巻く』（2004年、小学館）、榊原悟『すぐわかる絵巻の見かた【改訂版】』（2012年、東京美術）は参考書として有用である。